

## 2010 年度 小委員会活動成果報告

(2011 年 2 月 1 日作成)

<b>小委員会名</b>	キャンパス・地域連携小委員会	主 査 名：倉田直道 就任年月：2009 年 4 月
<b>所属本委員会 (所属運営委員会)</b>	都市計画委員会	委員長名：小林英嗣 主 査 名：
<b>設 置 期 間</b>	2009 年 4 月 ～ 2013 年 3 月	
<b>設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)</b>	<p><b>【設置目的】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域と大学の連携に対する都市計画的な方向性</li> <li>・ キャンパス施設環境の計画とマネジメントを地域との関係も含みつつ戦略的に実行していくための方法論</li> <li>・ 都市・地域と大学の戦略的連携の次世代的考え方と新たな手法</li> <li>・ 小委員会活動を外部組織、団体に還元していく社会貢献に関する連携関係の構築</li> </ul> <p><b>【各年度活動計画】</b></p> <p><u>09 年度</u>：3つの WG（サステイナブルキャンパス、都市・地域と大学経営、連携コミュニティ形成支援）が、役割分担をしつつ、上記の4つの目的を達成するように活動を展開する。</p> <p><u>10 年度</u>：これまでの大会 PD 等ででてきた課題、および 2009 年度に実施する事例調査をふまえ、都市・地域と大学の戦略的連携の次世代的考え方と新たな手法を検討、「サステイナブルキャンパス」を構築するためにその枠組みとガイドラインの検討、国際的なネットワークにおける交流、「情報交流シンポジウム」、「大学・地域連携のための勉強会」を行い、地域の活動支援につながるアクションプラン構築を目指す。</p> <p><u>11 年度</u>：学会大会行事（技術部門設計競技）の企画、オーガナイズドセッションの企画運営を行うと共に、国際ネットワーク組織と出版、データベース構築などのワーキング活動の支援を行い、10 年度の活動を発展、展開させる。</p>	
<b>委員構成 (委員名 (所属))</b>	<p>委員公募の有無：無</p> <p>倉田直道（工学院大学）、小松尚（名古屋大学）、小篠隆生（北海道大学）、坂井猛（九州大学）、上野武（千葉大学）、斎尾直子（筑波大学）、有賀隆（早稲田大学）、鶴崎直樹（九州大学）、的井宏樹（内閣官房地域活性化統合事務局）、土井一成（横浜市）、江川直樹（関西大学）、山崎雅男（文部科学省大臣官房文教施設計画部）、恒川和久（名古屋大学）、三宅諭（岩手大学）、遠藤新（工学院大学）</p>	
<b>設置 WG (WG 名：目的)</b>	<p><b>サステイナブルキャンパス WG</b>：「サステイナブルキャンパス」を構築するためにその枠組みとガイドラインの検討、国際的なネットワークにおける交流</p> <p><b>都市・地域と大学経営 WG</b>：(1) 都市計画論、地域経営論からの分析の視点、(2) 都市再生施策、施設整備計画の視点等から、都市・地域と大学の戦略的連携の次世代的考え方と新たな手法を検討</p> <p><b>連携コミュニティ形成支援 WG</b>：情報交流シンポジウム、「大学・地域連携のための勉強会」を行い、地域の活動支援につながるアクションプラン構築</p>	
<b>2010 年度予算</b>	300,000 円	<p>ホームページ公開の有無：有</p> <p>委員会 HP アドレス：<a href="http://news-sv.aij.or.jp/toshi/s1/">http://news-sv.aij.or.jp/toshi/s1/</a></p>

項 目	自己評価
<b>委員会開催数</b>	7 回（年度内計画を含む）（4/28,6/26,7/25,8/9,10/4,12/10,2/2）
<b>刊行物 (シンポジウム資料等は除く)</b>	
<b>講習会</b>	

<p>催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)</p>	<p>1. 情報交流シンポジウム (第 14 回) (金沢大学)「キャンパスと地域のサステイナビリティ」参加者数 31名</p>
<p>大会研究集会</p>	
<p>対外的意見表明・パブリックコメント等</p>	
<p>目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p>	<p>1. 当初計画した行事 (シンポジウム、オーガナイズドセッション) は、予定通り実施することができ、目標を達成できた。 2. 刊行企画を現在進行中であり、刊行を目指し最終の校正を行っており、充実した内容の出版物をつくることのできる予定である。 3. 国際シンポジウムにて研究成果を発表した。 4. 国際的なキャンパス計画のネットワーク組織において、WG の運営や出版企画に協力した。 5. 3WG による研究活動も役割分担をしつつ行い、それぞれで成果をだすための活動を展開している。</p>
<p>委員会活動の問題点・課題</p>	<p>1. 社会に対する発信をどのように行っていくかについて検討する必要がある。 2. 都市計画委員会の小委員会としての活動を意識した活動の展開 3.</p>

\*小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。